ISSN 0027-9153

月報

国立国会図書館

主題検索のしくみ
図書館の知識をウェブの世界へ

国立国会図書館件名標目表（NDLSH）の展開

2010.6
No.591

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地　〒100-8924　東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号　03(3581)2331
利用案内　03(3506)3300(音声サービス)
　　03(3506)3301(FAXサービス)
ホームページ　http://www.ndl.go.jp/
利用できる人　満18歳以上の方
資料の利用　館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日　日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料　和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間　月～金曜日 9:30～19:00　土曜日 9:30～17:00
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。
資料請求時間　月～金曜日 9:30～18:00　土曜日 9:30～16:00
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。

即日複写受付　月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～16:00
後日複写受付　月～金曜日 10:00～18:30　土曜日 10:00～16:30
オンライン複写受付　月～金曜日 10:00～17:30　土曜日 10:00～15:30

■見学のお申込み／国立国会図書館　資料提供部　利用者サービス企画課　03(3581)2331　内線26111

関西館

所在地　〒619-0287　京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号　0774(98)1200(音声サービス)
利用案内　0774(98)1212(FAXサービス)
ホームページ　http://www.ndl.go.jp/
利用できる人　満18歳以上の方
資料の利用　館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日　日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料　和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、
　　科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間　月～土曜日 10:00～18:00
資料請求時間　月～土曜日 10:00～17:15
セルフ複写受付　月～土曜日 10:00～17:30
即日複写受付　月～土曜日 10:00～17:00
後日複写受付　月～土曜日 10:00～17:45
オンライン複写受付　月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館　総務課　0774(98)1224［直通］

国際子ども図書館

所在地　〒110-0007　東京都台東区上野公園12-49
電話番号　03(3827)2053
利用案内　03(3827)2069(音声・FAXサービス)
ホームページ　http://www.kodomo.go.jp/
利用できる人　どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用　館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日　月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料　国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間　火～日曜日 9:30～17:00　※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。

第一・第二資料室の利用時間
閲覧時間　火～土曜日 9:30～17:00
資料請求時間　火～土曜日 9:30～16:30

複写サービス時間
即日複写受付　火～日曜日 10:00～16:00
後日複写受付　火～日曜日 10:00～16:30
複写製品引渡し　火～日曜日 10:30～12:00　13:00～16:30

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館　03(3827)2053［代表］

6 June

CONTENTS

02 樺山資紀の海軍葬
今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から

04 主題検索のしくみ　本をテーマで探すには

10 図書館の知識をウェブの世界へ
国立国会図書館件名標目表（NDLSH）の展開

16 本の森を歩く　第3回　ユートピア　どこにもない場所

19 さまざまなメディア
東京本館音楽・映像資料室と電子資料室の資料から

24 米国の連邦図書館ネットワーク

15 館内スコープ
お得な情報あります

26 本屋にない本
○『喜多方の染型紙　喜多方の染型紙を生活と遊びの中に　会津型を利用したものづくり』
○『博物館は知のワンダーランド　はたちを迎えた中央博と友の会の活動』
○『神奈川県立川崎図書館50年史　科学と産業の情報ライブラリー』

29 NDL NEWS
○ワールドデジタルライブラリー憲章
○感謝状の贈呈

30 お知らせ
○大正時代等の本の著作権者を探しています
○利用者アンケート　ご協力のお願い
○講演会「電子図書館の可能性」
○講演会「セマンティック・ウェブと図書館：機械が情報を読む時代へ」
○NDL-OPACで検索できる資料が増えました
○図書館を経由したレファレンス・サービスのFAX・郵送での申込み、遠隔複写・図書館間貸出しのFAXでの申込みを終了します
○国際子ども図書館夏休み催物「科学あそび」
○第17回東京国際ブックフェアに参加します
○新刊案内　国立国会図書館の編集・刊行物

今月の一冊 June

国立国会図書館の蔵書から

樺山資紀の海軍葬

葦名ふみ

写真1　樺山資紀
電子展示会「近代日本人の肖像」所収
(http://www.ndl.go.jp/portrait/)

写真2

もし、説明がなかったら、上の写真が何の光景なのかを一見して判断するのは難しいかもしれません。

実は、この写真は、大正11（1922）年2月13日に青山斎場で行われた、海軍大将樺山資紀（**写真1**）の海軍葬の一こまです。**写真2**の右手では、海軍の軍服に身を包んだ儀仗（ぎじょう）兵たちが並び、空に向って銃を構えています。真ん中の白い天幕から、眼を奥にやると、花環が見えます。

樺山資紀は、天保8（1837）年生まれの薩摩藩士で、若かりし時には戊辰戦争、西南戦争に出征、のちに海相・初代台湾総督を務めた海軍の重鎮であるとともに、第2次松方内閣内相などを歴任した政治家でもありました。

海軍葬とは、海軍が公的に行う軍人の葬儀で、当時海軍葬喪令（大正9年勅令第195号）にその様式が定められていました。官職に応じて葬儀の規模や様式は異なり、海相まで務めた樺山の場合、海軍としての礼が尽くされることとなりました。

海軍の公文書「大正十一年　公文備考　巻二十二　儀制五」からは、葬儀当日の様子がつぶさにうかがえます。

当日の朝、東京府麹町区永田町の樺山邸で出棺祭が行われた後、樺山の柩（ひつぎ）は、永田町、赤坂区表町通り、青山通りを抜けて、青山斎場に向かいました。柩を載せた砲車を楽隊、儀仗隊、花、勲章、喪主、親族などが囲み、柩の周りには時の海軍大将6名が付き従うという大がかりな葬列でした。

到着後、青山斎場では、祭主による拝礼・祭文や、勅使からの礼、弔詞などが捧げられました。

弔砲が放たれたのは、海軍葬の終わりです。さしもの写真師も、眼前での発砲に手許が狂ったものでしょうか。「樺山資紀関係文書（その2）」に5枚残る海軍葬の写真のうち、この写真（**写真2**）だけは、ピントがずれ、露光に明らかに失敗しています（葬儀の2日前に行われた打ち合わせ記

写真３　右側に軍楽隊が見える。

写真４　海軍葬喪令施行細則25条の附図　（大正９年海軍省令第11号）『法令全書　大正九年　三之二』大蔵省印刷局

録によると、撮影は柴田写真店という写真館に依頼されたようです）。

海軍葬喪令の施行細則（大正9年海軍省令第11号）には「儀仗隊ノ敬礼ヲ行フトキ又ハ弔銃ヲ発スルトキハ「命ヲ捨テテ」ヲ奏シ」と定められていますから（第17条）、発砲されたときには、軍楽隊がこの曲を奏でていたに違いありません。別の写真には、軍楽隊の姿も写っています（写真3）。軍葬の際は、海軍葬喪令に定められているように喇叭（らっぱ）や太鼓に黒い喪布が巻かれます（写真4）。

出棺後、樺山資紀は染井墓地（現東京都豊島区）へ埋葬されました。

上の写真をはじめとする海軍葬関係の記録は、平成18年に樺山家から国立国会図書館へご寄贈を受けた「樺山資紀関係文書（その2）」に含まれています。

東京本館憲政資料室が所蔵する近現代の政治家・官僚・軍人の旧蔵文書には、葬儀にかかわる資料が数多く見受けられます。参列者名簿、供花の記録、弔辞、準備書類、写真など内容はさまざまですが、これらの資料は故人を取り巻く人間関係を如実に示し、人となりを知る上で貴重なものです。死や喪にかかわるだけに厳かな気持ちになりつつも、ついつい眺め入ってしまいます。

（あしな　ふみ　調査及び立法考査局調査企画課）

〔樺山資紀海軍葬写真〕　12×16.4cm　5枚

＜請求記号　樺山資紀関係文書（その2）751-1＞

※東京本館所蔵

参考文献

●「大正十一年　公文備考　巻二十二　儀制五」
「樺山海軍大将葬儀の件」（防衛省防衛研究所所蔵）
JACAR（アジア歴史資料センター）レファレンスコード
C08050421000、C08050421100、C08050421200、
C08050421300、C08050421400、C08050421500

●〔喪家側・海軍側葬儀打合会〕大正11年2月11日
＜請求記号　樺山資紀関係文書（その2）751-3＞

主題検索のしくみ

本をテーマで探すには

本をテーマで探すことを図書館の世界では「主題検索」といいます。インターネットの向こう側にある数千万冊の本から自分の読むべき1冊を探すとき、タイトルや著者だけでなく、テーマで探すことが必要になってきます。

国立国会図書館の目録では、本のテーマを「件名」「分類」を使って検索することができます。ここでは、「件名」を中心に、その使い方と目録作成作業の流れをご紹介します。

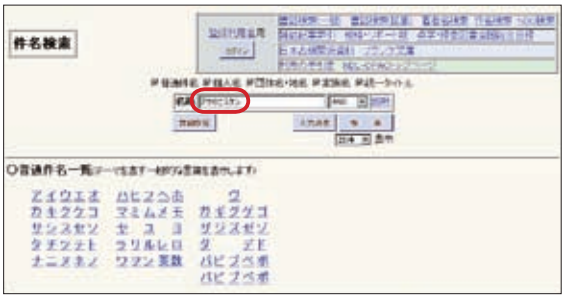
件名検索を使ってみましょう

NDL-OPAC（蔵書検索・申込システム）のトップページ「一般資料の検索／申込み」で、右上のメニューから「件名検索」を選択します。

http://opac.ndl.go.jp/

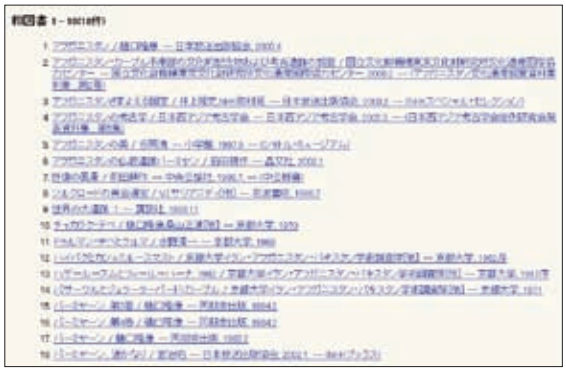
アフガニスタンについての本を探してみましょう。

検索窓に「アフガニスタン」と入力して検索すると、アフガニスタンに関連する様々なキーワードが表示され、テーマを絞り込む手助けをします。

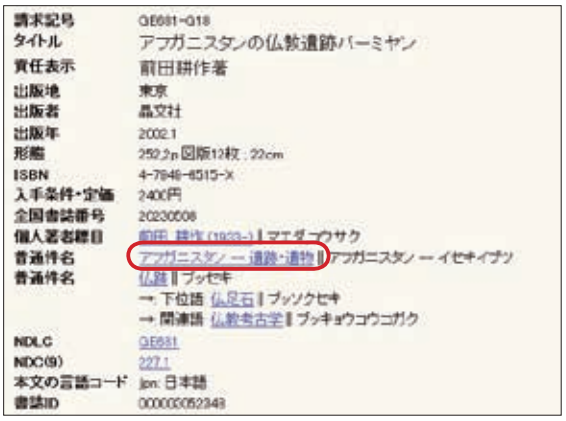


下の「普通件名一覧」では、五十音順にどのような件名があるか探すことができます。

この中から、例えば「アフガニスタン--遺跡・遺物」をクリックすると、アフガニスタンの遺跡や発掘品について書かれた日本語の本のデータが表示されます。「遺跡・遺物」というキーワードを最初に思いつかなくても、検索することができました。

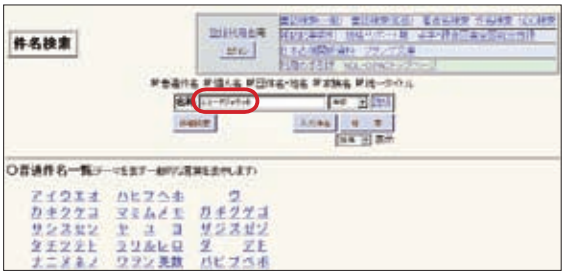


データベースを検索するときは、まずタイトルで探してみることが多いかもしれません。そのような場合も、本のデータにある「普通件名」をクリックすると、同じテーマの本を探すことができます。



次に、レコードのジャケットに関する本を探してみましょう。

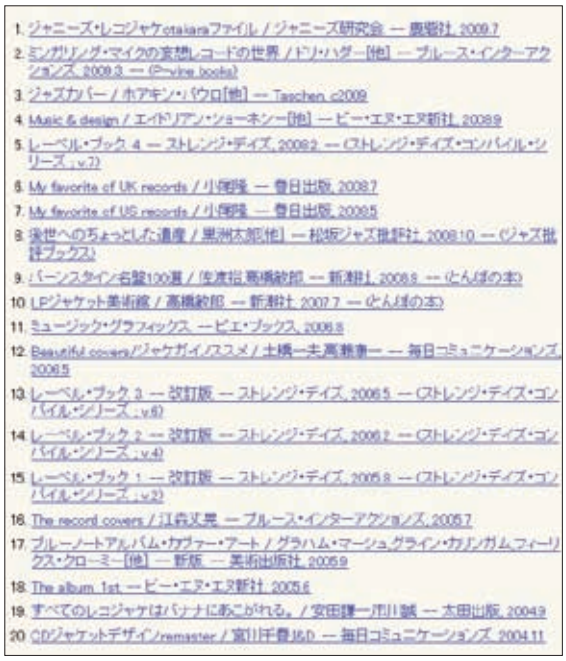
「件名検索」の画面で、とりあえず「レコードジャケット」と入力して検索してみます。



件名の中から、「レコードジャケット」を表すテーマを示すキーワードが表示されます。

「ディスクジャケット」「CDジャケット」「レコードスリーブ」などの言葉が、矢印で「ジャケット（ディスク）」へ向かっています。これは、レコードジャケットを表すいろいろな言葉を、「ジャケット（ディスク）」というキーワードへ統一して検索するようにナビゲートしているのです。「グラフィック・アート」「コンパクトディスク」など、関連するキーワードも表示されます。

「ジャケット（ディスク）」をクリックすると、レコードジャケットに関連する本を一覧できます。



上の「ジャケット（ディスク）」の検索結果では、タイトルに「レコード」「ジャケット」が含まれない本も見つかっています。

このように、図書館目録の件名は、その本のテーマを表すキーワードであり、さらに、

○より詳しい言葉へ

○似たような意味の様々な言葉を一つの言葉へ

○相互に関連する言葉へ

ナビゲートするしくみをもっています。

件名はどのように決まるのか

国立国会図書館では、「国立国会図書館件名標目表」（NDLSH：National Diet Library Subject Headings）を使用して、日本語の本（文学作品、娯楽書等を除く）のデータに件名を付与しています。

専任の担当者が件名を付与していく作業の流れを、簡単な例で見ていきましょう。

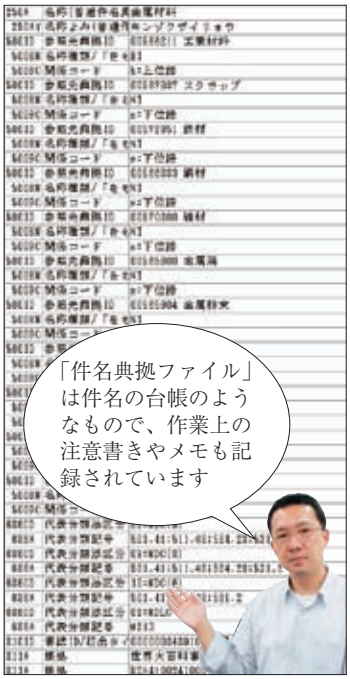
たとえばこの本
『よくわかる金属材料』
（三木貴博監修
技術評論社　2010）

序文やあとがきに
内容の説明があることも

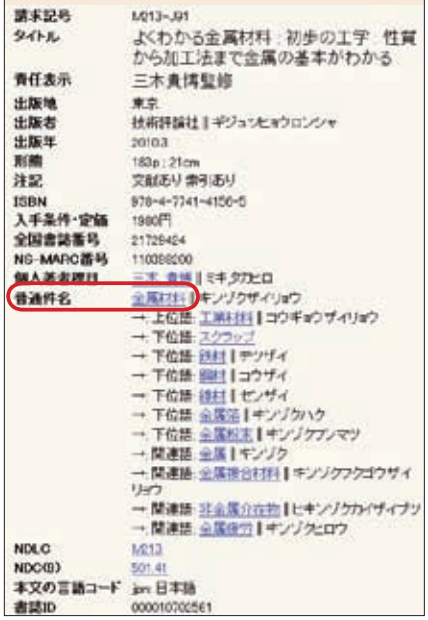
この本の内容は、
「金属材料」一般だけでなく、
鉄の歴史、鉄鋼業界の事情、携帯電話の部品などにも及んでいるが、
件名標目を付与する際は、
本全体での内容を把握する。

ポイント　図書館目録の「件名」は、その本全体で「何について書かれているか」を要約したもの。
探しているテーマにぴったり合う件名がなくても、そのテーマの本がないとは限りません。「金属材料」がなければ「金属工学」など、少し広い意味の言葉でも探してみましょう。

いよいよ件名標目を付与！
「件名典拠ファイル」検索中…



件名「金属材料」で作業完了！



請求記号	M213-J91
タイトル	よくわかる金属材料：初歩の工学：性質から加工法まで金属の基本がわかる
責任表示	三木貴博監修
出版地	東京
出版者	技術評論社 ‖ ギジュツヒョウロンシャ
出版年	2010.3
形態	183p；21cm
注記	文献あり 索引あり
ISBN	978-4-7741-4156-5
入手条件・定価	1980円
全国書誌番号	21726424
NS-MARC番号	110088200
個人著者標目	三木 貴博 ‖ ミキ タカヒロ
普通件名	金属材料 ‖ キンゾクザイリョウ
	→ 上位語: 工業材料 ‖ コウギョウザイリョウ
	→ 下位語: スクラップ
	→ 下位語: 鉄材 ‖ テツザイ
	→ 下位語: 銅材 ‖ ドウザイ
	→ 下位語: 鋼材 ‖ コウザイ
	→ 下位語: 線材 ‖ センザイ
	→ 下位語: 金属箔 ‖ キンゾクハク
	→ 下位語: 金属粉末 ‖ キンゾクフンマツ
	→ 関連語: 金属 ‖ キンゾク
	→ 関連語: 金属複合材料 ‖ キンゾクフクゴウザイリョウ
	→ 関連語: 非金属介在物 ‖ ヒキンゾクカイザイブツ
	→ 関連語: 金属疲労 ‖ キンゾクヒロウ
NDLC	M213
NDC(9)	501.41
本文の言語コード	jpn 日本語
書誌ID	000010702561

次はこの本『貧者の領域』
（西澤晃彦著
河出書房新社　2010）

担当者の腕の見せどころ。
本に現れるキーワードを
分析してテーマを読み取り、
「件名標目」の形で表す。

国家と社会

貧困の現実

排除のメカニズム

都市下層への排除

貧者を作り出し苦難
をもたらす社会的・
制度的メカニズム

「社会」の再構築へ

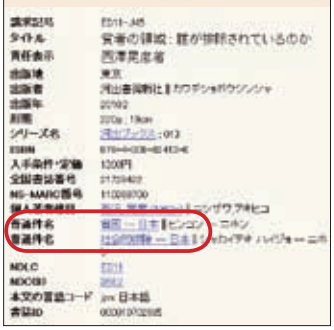
野宿者

→貧困
→社会的排除

件名標目によっては
「地名細目」
（その本が扱う
国・地域の明示）も
付与する。

ポイント
件名を使えば、
テーマだけでなく
国や地域でも
絞り込みができます。

件名「貧困--日本」「社会的排除--日本」　で作業完了！



これまでになかったテーマの
本があれば、辞書・事典を
参照するなどして、
件名標目を新たに作る。

どんな分野の本も
すばやく処理しな
ければならない。

分類のしくみ

もう一つの主題検索方法として「分類」があります。公共図書館などでは、本が分野ごとに並んでいます。これは、分類の結果なのです。

目録作成作業では、先にご紹介した件名標目の付与作業のほかに、分類作業も行います。テーマを分析した図書を類似の主題ごとに分け、その主題を表す記号を付けます。

分類のしくみを、日本で最も標準的な「日本十進分類法」（Nippon Decimal Classification：NDC）を例に見てみましょう。

NDL-OPACでは、「分類記号」でも検索できます。

前頁の『貧者の領域』は、件名標目が「貧困」で、「368.2」の分類記号を付与しました。この「368.2」でNDL-OPACを検索すると、「ホームレス」「スラム」といったテーマの本も挙がります。つまりこれらのテーマは、NDCでは同類のものとして、同じ分類記号のもとに位置づけられているのです。

一方で、NDLSHには、「貧困」「ホームレス」「スラム」さらに「低所得者」「ワーキングプア」といった用語もあり、より細かな主題へも対応しています。

図書館の分類法は、「分類表」という一定の体系の中に様々なテーマを位置づけようとするものです。一方、件名の場合は、従来にないテーマが現れれば、それに対応した件名標目を新たに作ります。

大まかにいえば、「分類記号」は類似の主題について網をかけるようにまとめて調べるのに向いており、「件名標目」は個別のテーマで絞り込むときに有効です。それぞれの利点をふまえ、使い分けることで、また、組み合わせて用いることで、より効果的な「主題検索」を行うことができるでしょう。

主題目録作業の困難さと面白さ

前頁の実例『貧者の領域』では、次のようなデータを作りました。

件名：「貧困―日本」「社会的排除―日本」
NDC：368.2

同じ本のデータが、ある図書館の目録ではこうなっています。

件名：「社会的差別」
NDC：361.8（「社会的成層」という主題を表す記号）

件名標目も分類記号も異なっています。ここに主題目録作業の困難さと面白さ（?）があるのかもしれません。目録法のある大家はこう言っています。

> 当然のことながら、資料の内容の解釈において、目録作業者間に相違があり、そして、時に、異なる時間に同一の著作を読んだ同一の個人でさえ、その内容について同一の判断を下さないかもしれない。*

つまり、主題目録作業の「分析」の過程は、作業者の主観的要素に左右されるところがあるのです。

では機械で処理すればいいかというと、効率性の面ではまだまだ人間の頭脳に勝る段階ではありません。こうした「困難さ」があることをふまえた上で、たとえば、ベテランは経験の浅い者へ指導するなど、作業の現場では常に調整が行われています。

＊Chan, Lois Mai. *Library of Congress subject headings : principles and application.* 4th ed. Libraries Unlimited　2005　p.173

図書館目録の役割と可能性

図書館の目録には、資料と利用者を結びつける機能・役割があります。書店や公共図書館などで本を探すときは、書棚の前で本を手に取りながら選ぶこともありますが、膨大な数の本の中から自分の読むべき1冊を探すときは、目録が役に立ちます。

目録は資料の「身代わり」としてその特徴を正確かつ簡潔に示し、様々な手がかりから検索できるものでなければなりません。目録を作成する手法には、大きく分けて記述目録法と主題目録法の二つがあります。資料のタイトル、著者、出版者、大きさなど外見上の特徴を記録する記述目録法に対して、主題目録法は、資料の内容上の特徴を、すなわち、どのようなテーマについて書かれているのかを「件名標目」「分類記号」で表現します。

さらに、納本制度に基づいて日本国内の出版物の納入を受けている国立国会図書館の目録は、日本の出版物の記録でもあります。

国立国会図書館の資料は、日々増え続けています。その増大する資料を、いかに効率よくテーマから探せるようにするか。図書館の世界で長くつちかわれてきた「件名標目」と「分類記号」は、その利用価値がまだ知られていませんが、図書館目録だけでなく、ウェブ情報の検索に活用するなど、まだまだ可能性があるはずです。その可能性を絶やさないためにも、常に効率よく的確な目録を目指して作業を続けています。

（収集書誌部収集・書誌調整課、国内資料課）

※NDLSHの活用については、次頁「図書館の知識をウェブの世界へ」をご参照ください。

この記事は、『NDL書誌情報ニュースレター』2009年2号のコラム「書誌データ探検　件名（1）　図書館版キーワード検索―件名標目とは？」（http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/2009_2/index.html#07）に大幅に加筆し再構成したものです。
『NDL書誌情報ニュースレター』について、詳しくは本誌p.15「館内スコープ」をご覧ください。

図書館の知識をウェブの世界へ
国立国会図書館件名標目表（NDLSH）の展開

図書館などの目録データベースで目的の資料を探すとき、タイトルや著者、出版者などで探すことが多いのではないでしょうか。

あらかじめ資料が特定されているのではなく、「こういうテーマの本を読みたい」というときは、「件名」での検索が役立ちます。件名とは、図書館の目録の中で、その本のテーマを表すキーワードです。

※件名を使った検索の方法は、本誌pp.4-9「主題検索のしくみ」をご覧ください。

件名は様々な表現に対応します

図書館目録の件名では、「標目」という基本の形が定められています。例えば「図書」という言葉は、「本」「book」「書物」「書籍」などほかにも様々な言い表し方がありますが、件名標目としては「図書」を用い、「本」「書籍」などをその「参照語」として、どのような言葉で検索しても結果が同じになるようにしています（次頁図）。

1. 図書 ‖ トショ
← 本 ‖ ホン
← 書籍 ‖ ショセキ
← 書物 ‖ ショモツ
← Books
→ 下位語: 漢籍 ‖ カンセキ
→ 下位語: 基本図書 ‖ キホントショ
→ 下位語: 古書 ‖ コショ
→ 下位語: 参考図書 ‖ サンコウトショ
→ 下位語: 児童図書 ‖ ジドウトショ
→ 下位語: 絵入り本 ‖ エイリボン
→ 下位語: 仕舞本 ‖ シカケボン
→ 下位語: 稿書 ‖ キショ
→ 下位語: 叢書 ‖ ソウショ
→ 下位語: 写本 ‖ シャホン
→ 下位語: ペーパーバック
→ 下位語: 大活字本 ‖ ダイカツジボン
→ 下位語: 点字資料 ‖ テンジシリョウ
→ 下位語: 偽書 ‖ ギショ
→ 下位語: 禁止本 ‖ キンシボン
→ 下位語: 初版 ‖ チョクハン
→ 下位語: 洋書 ‖ ヨウショ
→ 下位語: ヤングアダルト図書 ‖ ヤングアダルトトショ
→ 関連語: 造本 ‖ ゾウホン
→ 関連語: 書誌学 ‖ ショシガク
→ 関連語: 読書 ‖ ドクショ
→ 関連語: 国際標準図書番号 ‖ コクサイヒョウジュントショバンゴウ
→ 関連語: 図書館資料 ‖ トショカンシリョウ
→ 関連語: 図書 — 標題 ‖ トショ — ヒョウダイ
→ 関連語: 書目 ‖ ショモク

件名標目「図書」

世界の図書館では

件名標目と参照語をまとめたリストを「件名標目表」といいます。代表的な件名標目表には、主に英語圏で使われている「米国議会図書館件名標目表」(Library of Congress Subject Headings：LCSH)、フランス語圏で使われているフランス国立図書館の件名標目表（Répertoire d'autorité-matière encyclopédique et alphabétique unifié：RAMEAU)、日本国内において一般的に使われている「基本件名標目表」(BSH) などがあります。国立国会図書館では、独自に「国立国会図書館件名標目表」（以下、NDLSH）を作成し、維持管理しています。

NDLSHは膨大な蔵書を背景としたシソーラス

件名標目表では、それぞれの件名標目の関連が明確になっていると検索のときに便利です。言葉の上下関係、類縁関係を示した語い集を「シソーラス」といいます。NDLSHにおいても、件名標目に上位語、下位語、関連語という関係付けをもたせる「シソーラス化」の取組みを平成16年から平成18年に行い、資料へのナビゲートがさらに正確に行えるようになりました。国立国会図書館は、納本制度により収集された日本国内の膨大な出版物を所蔵しています。NDLSHは、それらを背景とした、国内に例のない、幅広い分野をカバーするシソーラスです。

件名が有効に機能するには、一貫性、統一性をもって付与される必要があります。担当者によって方針が変わるようでは、正確な検索ができません。このため、目録を作成する機関では、標目の作成や付与に関する指針を定めています。

国立国会図書館は、「国立国会図書館件名作業指針」を定めて、ホームページに掲載しています。件名標目には、個人名、家族名、団体名、地名、統一タイトル、普通件名（テーマを表すもの）の6種があります。従来は、普通件名にかかわる作業指針のみを件名標目表の付録として公表していましたが、この6月末には、すべ

Web NDLSH　http://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh

ての件名の作成と付与に関する作業指針を公表するよう準備中です[1]。件名目録作業、また、国立国会図書館の目録を利用する際に、ぜひご覧ください。

NDLSHの新しい取組み

NDLSHは、国立国会図書館が収集する日本の出版物、いわば日本の知識の集積を基盤としたものです。このNDLSHを、インターネット上で膨大な情報を効率よく検索するために活用できないかと考えています。

国立国会図書館では、NDLSHを活用していただけるよう、二つの取組みに着手しています。

ウェブの世界でも件名を

この6月に、ウェブの世界で活用しやすい形式であるSKOS（Simple Knowledge Organization System）モデルでNDLSHデータの提供を開始します。SKOSはWorld Wide Webコンソーシアム（W3C）[2]の規格の一つです。これまでNDLSHは、冊子体を経て、PDFファイル、テキストデータ

1　国立国会図書館ホームページ（http://www.ndl.go.jp）＞図書館員の方へ＞書誌データの作成および提供＞書誌データ作成ツール：分類・件名（NDLC、NDLSHなど）（http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bunruikenmei.html）に掲載予定。
2　インターネット上で利用される技術の標準化を進める団体。

の形式で提供してきました。

SKOSモデルのNDLSHでは、ウェブ上での流通性、相互運用性が向上し、Wikipedia等の他の辞書的な情報資源との連携、ソーシャルタギング[3]と連携し、ウェブ上のタグと結びつけることなど、様々なウェブサービスと組み合わせて利用することが考えられます。

先行事例としては、米国議会図書館がLCSHをSKOS形式で提供しています[4]。

新しいNDLSHの提供システム「Web NDLSH」では、NDLSHを基本形、参照語等から検索することができます。検索は完全形、部分一致いずれにも対応しており、漢字形のほかひらがな・カタカナでの検索も可能です。

検索結果からは、その件名を作成するきっかけとなった資料の書誌情報（NDL-OPACへのリンク　①）のほか、LCSH（②）やWikipedia（③）も参照できます。

また、各件名間の関係性（上位語、下位語、関連語等）を図式化して表示します（④）。

「Web NDLSH」では、SKOSモデルのデータ

3　ウェブ上のコンテンツにユーザーがタグ（キーワード）を付与し、共有する仕組み。
4　米国議会図書館の検索画面　http://id.loc.gov/authorities/

を自由にダウンロードすることができます。個別にダウンロードする場合は、RDF/XML、RDF/Turtle、JSONの3種類の形式（前頁⑤）、全件を一括してダウンロードする場合は、RDF/XML、TSVの2種類の形式があります。

また、外部からSPARQL[5]によりNDLSH提供システムを検索する仕組みも用意しました。

他の件名標目表との連携

さらに、NDLSHと他の件名標目表との連携に取り組んでいます。

平成16年から、英語圏の代表的な件名標目表であるLCSHと概念が合致するものについては、LCSHの件名標目を参照語として記録しています。これにより、米国議会図書館の目録データベースで同じテーマの資料を検索することができます。国立国会図書館の目録で、英語で件名検索を行うことも可能です。また、件名標目は時代の推移により変わることもありますが、基本形が変わっても連携を保てるよう、平成21年7月以降に新設した普通件名については、LCSHの永続的識別子であるコントロール番号を記録しています。LCSHは、フランス語圏の件名標目表RAMEAUと一部リンクしており、図書館目録の主題検索は、言語の壁を越えつつあります。

また、日本国内の件名標目表との連携も進めています。国内で標準的に用いられている件名標目表は、日本図書館協会が維持管理している「基本件名標目表」（BSH）です。従来は、NDLSHは学術用語中心、BSHは一般語中心という位置づけでしたが、NDLSHでも一般的な言葉を使うようになり、両者の相違は埋まりつつあります。書誌情報が機関を越えて流通する環境下では、件名標目表も連携した形となることが必要です。

国立国会図書館は、すでにNDLSHとBSHの連携作業に着手しており、両者で異なる件名標目を参照できるようにしています。平成21年11月の書誌調整連絡会議[6]でも、BSHとNDLSHの連携について関係者間で協議しました。作業の終了はしばらく先ですが、その結果の一部は、「Web NDLSH」でも参照できます。

国立国会図書館は、蔵書だけでなく、ウェブ上の情報へも適切なナビゲートができるよう、今後も作業を進めていきます。件名検索とNDLSHをどうぞご利用ください。

（収集書誌部収集・書誌調整課）

5　RDF形式のデータベースを検索する操作を行うためのクエリ言語。
6　国立国会図書館が、書誌調整にかかわる事項について関係諸機関と協議するため毎年開催する会議。

お得な情報あります

「書誌データのプロダクト提供サービス」「ダブリンコア」「メタデータ」「NDL-OPACから外部データベースへのリンク」「国際目録原則覚書」「FRBRモデル」「利用者志向の目録」……。耳慣れない言葉ばかりでしょうか。なんとなく便利そうなフレーズもありませんか？ これらは、ホームページに掲載している『NDL書誌情報ニュースレター』の目次から拾ったものです。

「書誌情報」「書誌データ」とは、図書や雑誌を探し出すために、タイトルや著者、出版年、扱うテーマなどを記録した情報のことです。国立国会図書館は、所蔵する膨大な資料の書誌データを作成し、インターネットなどを通じて提供しています。また、これらの書誌データが、他の図書館で、さらに国境を越えて広く活用されるよう、データの作成や内容についての方針や基準の整備なども行っています。

『NDL書誌情報ニュースレター』は、このような書誌データの作成と提供に関するニュースのほか、関連する会議等への参加報告など、国内外の最新の動向についてお伝えするものです。冊子体で刊行していた『全国書誌通信』を、2007年からホームページに切り替えました。

対象とする読者は主に図書館や関係機関の方ですが、書誌データになじみのない方にも、図書館の目録を検索するときに知っておくとお得な情報をお届けできるよう、力を注いでいます。その一つが、コラムです。「件名」「著者名典拠」などのトピックについて、その役割や使い方をわかりやすく、おもしろく解説しようと頭をひねっています。

書誌データの標準化に向けた関係者への広報、目録データベースを利用する方々にとってお得な情報の提供、いずれも一筋縄ではいかない目標ですが、少しでも前進できるよう、日々格闘しています。ぜひこの機会に『NDL書誌情報ニュースレター』をご一読ください。

（収集・書誌調整課　CANE）

国立国会図書館ホームページ＞図書館員の方へ＞書誌データの作成および提供＞NDL書誌情報ニュースレター（http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/index.html）

本の森を歩く

国民読書年の今年、国立国会図書館の巨大な書庫の中から、毎回一つのテーマにそって蔵書をご紹介します。

第３回　ユートピア　どこにもない場所

ユートピアは、トマス・モアによる造語で、「どこにもない場所」という意味のほか、「よい場所」という意味もあるそうです。モアが『ユートピア』を著す以前から、人々は理想の場所、社会を想像し、描き出してきました。それらは単なる夢物語ではなく、当時の社会への批判も込められ、時代の変革に寄与してきました。今回は、ユートピアに関する西洋の作品を、社会の変化とからめながらご紹介します。

近代国家が成立する以前に書かれた作品では、平和で秩序ある国家が描かれています。

プラトン（前428-前347）の『国家』（前375頃刊）（**1**）では、理想国家の実現には哲人による統治が必要とされ、哲人を生み出すための教育のあり方など、最善の国家を築くための条件が示されています。

トマス・モア（1478-1535）の『ユートピア』（1516刊）（**2**）に描かれた理想国では、人々は等しく1日に6時間（午前、午後各3時間）労働し、生産物は皆で分け合う仕組みとなっています。モアは、多数の貧しい農民が生産に従事し、少数の豊かな貴族が消費に従事していた当時の社会を批判し、すべての人が飢えることなく、幸福に生きられる理想的な社会像を描き出そうとしました。

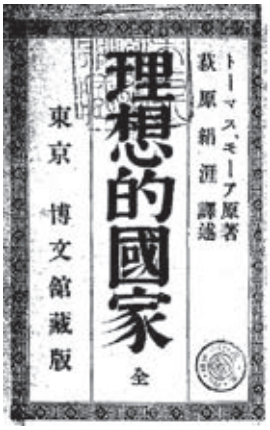
16～17世紀頃の絶対王政下で繰り返された戦争や搾取は、イギリスやフランスで、社会構造の変革を求める動きを生むことになりました。憲法、平等、国民主権など、今日の社会が基盤としている多くの理念や制度がこの時代の政治哲学者たちによって構想されましたが、その理想はユートピアの描写にも表れています。

イギリス革命期の政治哲学者ジェイムズ・ハリントン（1611-1677）は『オセアナ共和国（*The Commonwealth of Oceana*）』（1656刊）（**3**）で「イギリス共和国」を描き出しました。ここで提案された財産・土地の均衡分配や官吏の民選・交代制、二院制といった制度は、後にアメリカ諸州の憲法、フランス革命の思想などに影響を与えたといわれています。

『ユートピア旅行記叢書』（**4**）には、この時期に書かれた作品が約30点集められています。15世紀末以来の大航海時代を背景に、『別世界また

1　『理想国家』プラトーン著　村松正俊訳　春秋社刊　1933年
＜請求記号　629-42＞
ソクラテスが若いアテナイの人々に語るという形で、理想の国家像が示されています。

2　『理想的国家』トーマス・モーア著　荻原民吉（絹涯）訳　博文館刊　1894年
＜請求記号　YDM39724＞
（近代デジタルライブラリーでご覧になれます）
ユートピア島という架空の島に存在する理想国について、様々な国を航海した老人がモアに語るという形式になっています。



1　3

は日月両世界の諸帝国』（1657-1662刊）や『ガリバー旅行記』（1726刊）など、航海の途中で漂着した島や宇宙空間への旅といった、別世界での遭遇・体験をつづった物語が多数書かれました。

政治や宗教を批判することが厳しく禁じられていた時代、新しい社会制度の提案をする際に、どこか別の国でのお話＝「ユートピア旅行記」という形で、作者の思想･理想が表現されたのです。

18世紀後半に起きた産業革命の後、分業制の拡大による人間性の喪失や資本家と労働者の対立など、資本主義がもたらした弊害が広く認識されるようになりました。こうした時代の影響を受けて、19世紀には、資本主義的なあり方を批判した作品が描かれるようになりました。

エドワード・ベラミー（1850-1898）の『顧りみれば(*Looking backward, 2000-1887*)』(1887刊)(**5**)は、中央集権的な国家体制や技術の革新、発明によって人々の生活が豊かになるという、科学技術に支えられた社会主義的な国家を理想とした作品です。西暦2000年のボストンがユートピアとして描かれています。ヨーロッパ各国で労働者階級による社会主義運動が起こり始めた19世紀後半にアメリカで刊行され、ベストセラーになりました。

19世紀イギリスの美術工芸家で詩人のウィリアム・モリス（1834-1896）は、工場で大量生産された製品の無味乾燥さと、そこでの労働の非人間性に疑問を呈し、手仕事の復興による人間性の回復を提唱しました。『ユートピアだより』（1890刊）（次頁**6**）で描かれた未来世界では、すべての人は「芸術家」として仕事をし、「仕事そのもののなかに」喜びを見出しています。

4　5

3　Harrington, James. *The Commonwealth of Oceana*. London, G.Routledge and Sons, 1887.
＜請求記号　193-156＞
初版が刊行されたのは、1656年、クロムウェルによる共和制期でした。

4　『ユートピア旅行記叢書』
赤木昭三（ほか）編　岩波書店刊
1996-2002年
＜請求記号　KE211-G6＞
全15巻。

5　『顧りみれば』　ベラミー著
山本政喜訳　岩波書店刊　1953年
＜請求記号　933-cB43k-Y＞
1世紀以上の眠りから覚め、西暦2000年にやってきた主人公は、労働運動が100年後にどう解決したのかを目の当たりにします。

しかし人々は次第に、国家による統治や科学の進歩が幸福をもたらすだけのものではないということを強く認識するようになりました。このような時代の影響を受けて、機械文明や管理社会化がもたらす恐ろしい未来を描いた「ディストピア（反ユートピア）」の物語も登場します。

科学師範学校で学んだハーバート・ジョージ・ウェルズ（1866-1946）は、当時のヨーロッパを揺るがしたダーウィンの進化論に強く影響を受けてその科学的想像力を開花させました。彼が1895年に発表した『タイム・マシン』（**7**）の中で描いたのは「退化」する未来で、安定が長く続き過ぎたゆえに低下する知性やカニバリズムの復活など、「反」ユートピア的なエピソードが衝撃的です。しかし、物語の終盤、未来人にもらった花を見ながら主人公はこう語るのでした。「この花は今は萎びて茶色に変色し、形も崩れてしまったが、それでも、人間から知性と力強さが退化してしまった未来世界においてさえ、感謝とこまやかななさけが、人の心の中に生き続けている証拠だからである。」

これから我々はどのようなユートピアを目指すべきなのでしょうか。

（主題情報部参考企画課、総務部総務課）

※この記事は、平成16年に行った第133回常設展示「ユートピアーどこにもない場所ー」をもとにしています。
これまでの常設展示については、国立国会図書館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞調べ方案内＞リサーチ・ナビ＞本の万華鏡＞過去の常設展示一覧（http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/back.php）をご覧ください。

※この写真は、国立国会図書館の所蔵資料を撮影したもので、実際の装丁とは異なる場合があります。

6　7

6 『ユートピアだより　もしくはやすらぎの一時代、ユートピアン・ロマンスからの幾章』ウィリアム・モリス著　川端康雄訳
晶文社刊　2003年
＜請求記号　KS164-H36＞
モリスが所属していた社会主義同盟の機関紙『コモンウィール』に発表した小説です。

7 『タイム・マシン』
H.G. ウェルズ作　橋本槙矩訳
岩波書店刊　1991年
＜請求記号　KS175-E285＞

さまざまなメディア

東京本館音楽・映像資料室と電子資料室の資料から

国立国会図書館で所蔵している資料は、紙の本だけではありません。レコードやCD、DVD-ROMなど機械で再生するものもあります。平成21年度末で、音声を記録した録音資料約65万点、映像を収めた映像資料約26万点、コンピュータ等の電子機器で再生可能な情報を記録した電子資料約10万点を所蔵しています。この中からおもなものをご紹介します。

かつて「出版物」といえば、紙に情報を印刷し、書籍や雑誌の形態にしたものを指していました。しかし近年では、紙ではなく機械を用いて利用する媒体も多く出回っています。

国立国会図書館は、国の唯一の納本図書館・保存図書館として、国内で刊行される出版物を広く収集し、貴重な文化的資産として保存し、後世に伝えていくという役割を担っています。開館翌年の昭和24（1949）年にはレコードが、平成12年には「パッケージ系電子出版物」が、納本制度の対象となりました。パッケージ系電子出版物とは「電子的方法、磁気的方法その他人の知覚によつては認識することができない方法により文字、映像、音又はプログラムを記録した物」（国立国会図書館法第24条）と定義され、ビデオテープやCD-ROM、DVDが該当します。年間で録音資料約1万5千点、映像資料約1万6千点、電子資料約1万点ほどが納入されており、その量は毎年増加しています。

これらの資料は、資料の長期保存や再生装置の陳腐化が課題となっています。紙の資料よりも変質したり損傷を受けやすいため、国立国会図書館では、EP・LPレコードの利用には、基本的に資料を傷めることの少ないレーザーターンテーブル（針の代わりにレーザー光で読み取る）を使用しています。また、電子媒体は製品化されて間がなく、媒体の寿命がどのくらいあるのかがまだ明らかになっていません。機器やソフトウェアのバージョンアップによって利用できなくなったり、LDのように再生機器自体の生産が終了してしまうこともあります。再生機器が対応していない場合、資料があっても利用できなくなってしまいます。

録音資料

エジソン、ベルリナーの蓄音機発明から始まり、SP・LPレコードの普及、CDへの移行、そしてインターネット配信。100年あまりの間に音声を記録する媒体はめざましく変化しました。

SPレコード

直径約30センチまたは約25センチの円盤型レコード。モノラル録音、78回転で片面最大4分30秒再生できる。シェラック（天然樹脂）製で割れやすい。国内では1907年から生産が開始された。

※カセットテープに録音し直したものでのご利用です。

LPレコード

直径約30センチの円盤型レコード。モノラルおよびステレオ録音、33 1/3回転で片面約30分まで収録可能。ポリ塩化ビニル製。1951年に国内で初めて販売された。

EPレコード

直径約18センチの円盤型レコード。45回転で片面約5分まで収録可能。1954年に国内で生産が開始された。中心孔が大きく、その形からドーナツ盤とも呼ばれる。

※EP、LPレコードは原則としてレーザーターンテーブルでのご利用です。

ソノシート

塩化ビニル製の非常に薄いレコード。音質や耐久性はレコードに劣るが、薄くて安価なため、雑誌の付録として多く流通した。2005年に生産終了。

※電子資料室でのご利用です。

カセットテープ

1963年に開発された、ケース入りの磁気テープ。持ち運びが容易で、規格が統一されているなどの特徴と、ラジオカセットレコーダーや携帯プレーヤーの誕生により、1970～80年代に広く普及した。

※電子資料室でのご利用です。

CD

音声記録用の光ディスクにデジタルデータを記憶したもの。直径12センチは約74分、8センチは約22分収録可能。1982年に国内で販売が開始され、現在広く流通する音声記録媒体のひとつ。

30センチ

映像資料

映像の記録媒体はフィルム、磁気テープから光ディスク（LD、DVD、Blu-ray）へと変化し、より小さなサイズに大量の情報を保存できるようになりました。

ビデオカセットテープ（VHS）

テープとリールを一つのカセットの中に納めたもので、1976年家庭用に開発された。取扱いが容易で規格が統一されているなどの特徴がある。

LD

直径約30センチの光ディスクで両面記録、最大2時間の録画が可能。1981年～90年代前半まで流通したが、DVDの普及で2007年に生産終了、LDプレーヤーも2009年に生産終了となった。

VHD

直径約26センチの光ディスクが、傷やほこりが付かないようにジャケットに納められている。カラオケ用を中心に1980年代に発売されたが、VHSやDVDほど普及しなかった。

※再生機器の関係でご利用になれません。

DVD

CDと同じサイズの光ディスクで、レーザー光の波長が短いため、記録容量が大きい。1996年に国内初のソフトが販売され、現在広く流通する映像記録媒体のひとつ。

Blu-ray

12センチの光ディスクで、DVDの約5倍の記録容量がある。世界初のBlu-rayディスクプレーヤーは2003年にソニーから発売された。

ビデオカセットテープ（U規格）

世界初の家庭用カセット式VTRの規格。1969年にソニー、松下電器、ビクター等が発表、1971年ソニーがUマチックという商標で発売した。

※再生機器の関係でご利用になれません。

30センチ

電子資料

コンピュータの外部記憶装置は、磁気ディスク（フロッピーディスク）から、光磁気ディスク（MOディスク）や光ディスク（CD-ROMやDVD-ROM等）へと変遷していきました。さらにSDカードやUSBメモリといった、小型で持ち運びのしやすい媒体も開発されました。

※光ディスク以外の資料は、再生機器の関係で原則としてご利用になれません。

フロッピーディスク

1970年に開発された。大きさは、8インチ、5.25インチ、3.5インチの3種類が主に知られている。データの書き換えが容易で、軽く持ち運びやすいことから、2000年ごろまではコンピュータのデータ保存メディアとしてとてもよく利用された。正式名称はフレキシブルディスク。

MOディスク

1987年に発売された。3.5インチのフロッピーディスクとほとんど変わらない大きさで、フロッピーディスクよりも大量のデータを記録できることから、日本では普及した。

光ディスク

レーザー光の反射により情報の読み出し、書き込み、あるいはその両方ができるようになっている円盤状の記録媒体。CD-ROMやDVD-R等の形態がある。

USBメモリ

コンピュータのUSBコネクタに接続するだけで利用できる、小型の記憶媒体。近年、普及が進み、USBメモリ形態の出版物も登場している。

30センチ

電子ブック

1990年代に発売され始めた。この機種では、8センチCD-ROMを専用の「電子ブックプレーヤー」で利用する。最近の「電子書籍」では、端末にデータをダウンロードする形式が主流となりつつある。

（電子ブックプレーヤーの一例）

このような資料もあります

ハート形レコード
『愛のファンタジー』リチャード・サンダーソン 歌　東芝EMI [1980]（映画「ラ・ブーム」主題歌）
©EMIミュージック・ジャパン

フィルモン
樹脂製の帯状レコード（長さ約13メートル、幅35ミリ）。1937年開発、1940年製造中止。
※一部別の媒体に情報を記録しなおしたものでのご利用です。

スキャントークリーダー
スキャントークコードと呼ばれるバーコードのようなものを、専用の機器で読み取って、再生します。

音楽・映像資料室のご案内

録音資料（レコード、CD）、映像資料（LD、VHS、DVD、Blu-ray）が利用できます。また、レコード会社の目録・参考図書（事典、カタログ、名盤ガイド等）を手にとってご覧になれます（一部書庫）。

●ご利用は、調査･研究を目的とする場合に限ります。

●ご利用の際には閲覧許可申請書を提出していただきます。

●資料の請求は、1日に3回までです（1回に請求できる点数は資料により異なります）。再生機器が異なる資料は、同時に申し込むことができません。

●視聴にはヘッドホンをご使用ください。

●参考図書の一部は書庫から出納します。

電子資料室のご案内

WindowsXP対応の電子資料（CD-ROM、DVD-ROM等）や組み合わせ資料、カセットテープやソノシートを利用することができます。

●機器の都合等により利用できない資料があります。

●一部の資料について利用やプリントアウトの制限をしています。ご利用の際には、閲覧許可申請書を提出していただくことがあります。

●データのダウンロードはできません。

●再生には資料室内の機器をご利用ください。

（資料提供部電子資料課）

米国の連邦図書館ネットワーク

ロベルタ・シェーファー氏
米国議会図書館法律図書館長
（前米国連邦図書館情報センター委員会（FLICC）事務局長）

平成21年12月3日、国立国会図書館長と行政・司法各部門の支部図書館長との懇談会において、米国議会図書館法律図書館長ロベルタ・シェーファー氏の講演会「米国議会図書館ー自国政府と国際社会に奉仕するー」を開催しました[1]。講演の内容から、米国連邦図書館情報センター委員会（FLICC）およびそのビジネス部門を担う米国連邦図書館情報ネットワーク（FEDLINK）についてご紹介します。

優れた意志決定を行うには、優れた情報が必要です。米国では、連邦政府図書館や情報センターが、その資源を有効に活用するために、合同の委員会を設け、資料の共同購入、業務支援などの連携・協力を行っています。

FLICCの役割　連携・協力の促進

米国連邦政府の各機関には、それぞれ図書館や情報センターが設置されており、約1万人の図書館員が働いています[2]。連邦政府図書館間の連携・協力を促進するため、1965年、米国議会図書館（Library of Congress）内に米国連邦図書館情報センター委員会（Federal Library and Information Center Committee : FLICC）が設立されました[3]。

FLICCのおもな活動領域は次の4点です。

○連邦図書館全体を代表して、一括して図書館資料やデータベース等の調達を行う
○連邦図書館に対して、提言や助言を行う
○新しい技術の導入を図る
○図書館員に教育と研修の機会を提供する

FLICCには、米国議会図書館長、国立農業図書館長、国立教育図書館長、国立医学図書館長のほか、連邦政府の各中央省庁、連邦最高裁判所、大統領府、政府印刷局（GPO）、国立航空宇宙局（NASA）、国立公文書館（NARA）、国立科学財団、スミソニアン協会等の代表が委員として参加しています。また、オブザーバーとして、会計検査院（GAO）、連邦政府一般調達局（GSA）等の代表も参加します。

また、連邦政府図書館や情報センター全体にかかわる重要な課題のために、ワーキング・グループ（WG）が設けられており、連邦政府図書館からボランティアで職員が参画し、彼らの専門知識を活かして活動しています。現在、予算・財務、災害対応、教育、人的資源、新技術、政策、保存・デジタル化、調査などのWGがあります。

例えば教育WGは、連邦政府図書館員のために図書館サービスの実例や手順を示すハンドブックを作成しました。人的資源WGは、人事管理局の

要請により、連邦図書館職員のコンピテンシー（業務遂行のために必要なスキル、知識、能力、行動その他の特徴のパターンを示し、業務評価の参考資料とするもの）を完成させました。そのほか、毎年、最優秀機関と最優秀図書館員を選ぶ表彰WGもあります。選定にあたっては、活動内容や利用統計、利用者の満足度を参考にしています。

よりよいサービスとコスト削減
――FLICC/FEDLINK

FLICCはそのビジネス部門として、米国連邦図書館情報ネットワーク（Federal Library and Information Network : FEDLINK）を設けています。FEDLINKはFLICCの指針に従って各種事業を行い、事業の手数料を収入源としています。FLICCには40の常任のポジションがありますが、事務局長と副事務局長の給与は議会図書館から、それ以外のポジションの給与はFEDLINKから支払われています。FLICC事務局長は、FEDLINKの運営の管理も行います。

FEDLINKは、加盟する連邦政府図書館の会計業務、経営管理を一括して行っています。連邦政府図書館は、資料の購入やオンラインサービスの契約等を独自に行うのではなく、FEDLINKを通じて行うことにより、各連邦政府図書館の事務処理の時間と手間を省くことができるとともに、一括で購入することで価格を下げることができ、コストの削減につながっています。2008年度には1,460万ドル以上の経費を節減しました。FEDLINKの設立は、1976年に連邦政府図書館全体としてOCLC[4]に加盟したことがきっかけです。

FEDLINKは、物品等の購入・契約のほか、連邦政府内の図書館および情報サービスを管理し、図書館システムなどの研修等も行っています。2008年度には、資料をデジタル化して提供する新しいサービスに着手しました。

また、各図書館に対する様々なサポート、特に書誌データの作成、資料の貸出作業等の機械化・標準化、著作権の管理を支援するサービスを提供していることも特徴です。

我々は、優れた情報を効率よく提供するためにこれからも努力を続ける必要があります。米国と日本では制度が違うので、FLICC/FEDLINKのような手法は難しいかもしれませんが、一例としてご参考になれば幸いです。

（Roberta Shaffer

編集　総務部支部図書館・協力課）

---

1 当日は、梅田さゆり氏（米国議会図書館法律図書館外国法上級スペシャリスト）が代読した。
2 ここでいう連邦政府図書館（または情報センター）には、中央省庁のほか、地方出先機関、世界各国に存在する軍や大使館の図書館等も含まれ、その数は2千を超えるとされる。
3 当時の名称は米国連邦図書館委員会（Federal Library Committee）。
4 米国の書誌ユーティリティ（目録の共同作成等、図書館の資源の共同利用を図る機関）。世界171か国・地域から7万2千以上の図書館が参加する。

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、
日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない
国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

喜多方の染型紙

喜多方の染型紙を生活と遊びの中に 会津型を利用したものづくり

会津型研究会編・刊
〒969-0819　喜多方市字1-4536
2009.1　48頁　30cm　　＜請求記号　KB441-J29＞

染物の技法の一つに、型紙を使って生地に模様を染める型染めがある。型染めの着物などを見て、どのように生地を染めているのか、自分で作ってみたいなどと思ったことのある方も多いのではないだろうか。その疑問を解く鍵が本書にはある。

本書は、喜多方市郷土民俗館で染型紙約3万7千点の整理と調査･研究を行っている会津型研究会が、喜多方の染型紙の普及のため、染型紙を利用した、現代の日用品を含む様々な作品づくりの手順を紹介した手引書である。

はじめに、所蔵する染型紙とその寄贈者である福島県喜多方市の小野寺家について簡単に紹介されている。染型紙は、江戸時代には自由に手に入るものではなく、許可を得た商人が独占的に扱う商品であった。伊勢のものが有名だが、江戸末期には会津も染型紙の産地の一つであった。小野寺家は安政6（1859）年に会津藩の公認を受けて昭和初期まで染型紙の製作販売を行っており、明治から大正期には東北地方における染型の一大供給拠点であったといわれる。この小野寺家に、関連資料を含め貴重な染型紙が数多く残されていた。

第1章では型紙の作り方、第2章では型紙を利用したものづくりの方法がまとめられている。基本的な知識や手順について図や写真を多用してわかりやすく説明し、応用編としてガラスの浮彫り、Tシャツや陶磁器への絵付け等の作品づくりの方法を紹介している。第3章では、染型紙の模様の鑑賞方法について紹介している。染型紙の図案については喜多方市郷土民俗館が以前に『喜多方の染型紙　会津型』（1994.3）＜請求記号　KB441-J27＞『喜多方の染型紙　会津型　2』（2000.3）＜請求記号　KB441-J28＞の2冊を刊行していることもあり、本書には染型紙の図案の写真がいくつか掲載されるのみで、原寸大の図案見本は収録されていない。この点は作品づくりを紹介した手引書として残念である。

一つの型の表現法には、型全体を白くする（日向）、型全体を黒くする（日陰）、型の淵を白くする（日向のくくり）、型の淵を黒くする（日陰のくくり）の4通りの方法がある。これらを組み合わせて様々なデザインが考えられているということが具体例を交えて説明されており、大変わかりやすく、印象深い。喜多方の染型紙が高度な技術により作られたものであることがわかる部分である。

渋紙を使った型紙作りや布への型染め等は、専門的な道具や薬品が必要だが、消しゴムを利用した型つくり、染型紙を利用したカレンダーなど、手軽な作品の作り方も紹介されている。興味をもたれた方は作品づくりに取り組んでみてはいかがでしょうか。

（主題情報部人文課　光延（みつのぶ）　真理（まり））

※入手をご希望の方は、会津型研究会事務局　FAX　0241（22）4132へご連絡ください。1部1,000円です。

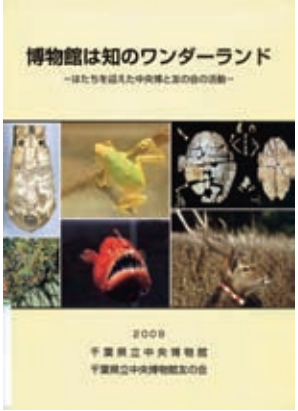
博物館は知のワンダーランド
はたちを迎えた中央博と友の会の活動

千葉県立中央博物館、千葉県立中央博物館友の会編
千葉県立中央博物館友の会刊
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（博物館）
2009.3　127頁　30cm　　＜請求記号　UA31-J90＞

我が国には約1,200の博物館と4,400ほどの類似施設があるそうです。人々の様々な知的欲求に応える博物館は、いつでも身近で楽しい施設です。

本書は、千葉県立中央博物館と同友の会の20周年誌です。同館は10周年誌も作成していて、そちらが活動実績を時系列で報告するものであったのに対し、本書は「読み物」たることを意識して作成したもので、同館あるいは同会の様々な関係者がその活動をエッセイ風にまとめたものとなっています。エッセイ風といっても自由に執筆されたのではなく、同館の多様な活動内容を描き出すため、あらかじめテーマを設定してそれにふさわしい著者を選んだそうです。その結果約60名の寄稿が集まっていますが、残念ながら紙幅の都合ですべての企画は実現されなかったようです。現今では様々な活動を記したホームページやブログが無数にあるものですが、「記念誌」として編集し、紙で残すことの意義は大きいのではないでしょうか。本書を手に取って、「20周年おめでとうございます」と呼びかけたい気持ちになりました。

ユニークなのは、ミュージアムショップにかかわった方々の寄稿もあることでしょう。ショップ内で書籍を扱うための出版社への取引依頼、貯金を手に高額な標本を買いに来た男の子の様子などが綴られています。海外の博物館では立派なミュージアムショップを持ち、魅力的な特製グッズを扱っているところが多いもので、それに対し、我が国はやや地味な印象のあるところ、そこを取り上げたのは、同館においてミュージアムショップが正しく位置づけられている証左でしょう。筆者は特に、挿入写真にある「特別展『驚異の深海生物』2006」の特製Tシャツに心ひかれました。



ほとんどの写真はモノクロですが、豊富に掲載されています。そして、そこには所蔵品（標本）の類はもちろん、多くの「人」が写っています。様々な観察会やサークルを通じて実に多くの人々が同館にかかわり、活動している姿がページから伝わってきます。参加者のエッセイと相まって、活動の実態を雄弁に物語っています。

個人のエッセイは、正式な活動実績の報告とは異なり、主観的ではありますが、実態を生き生きと表しています。正式な報告からは把握しにくい部分がとらえられています。博物館等で同様の活動を行っている読者には、励みとなることでしょう。

編集後記によると、本書は『博物館を楽しむ　琵琶湖博物館ものがたり』（岩波ジュニア新書　岩波書店　2000）の同種の手法を参考に作成したとのことです。こうしたアプローチによる記念誌は、特に社史では多いようです。こうした資料もどんどん世に出ることを願ってやみません。

（収集書誌部国内資料課　滑川（なめかわ）　憲一（けんいち））

神奈川県立川崎図書館50年史
科学と産業の情報ライブラリー

神奈川県立川崎図書館編・刊
〒210-0011　川崎市川崎区富士見2-1-4
2008.11　100頁　30cm　　＜請求記号　UL244-J22＞

神奈川県立川崎図書館は、工業専門図書館として1958年に開館した。その背景には、京浜工業地帯を情報面から支えるという使命があった。その後、川崎図書館は独自の変遷をたどる。「工業専門図書館」から「科学と産業の情報ライブラリー」へ。本書では、その変遷をつぶさに追うことができる。

川崎図書館の特徴は、蔵書構成に現れている。蔵書構成は、その図書館の性格を明確に物語るものだ。現在の蔵書構成は、日本十進分類法（NDC）でいうところの哲学･歴史･芸術･文学（人文系）が4.6%、自然科学・技術工学・産業（科学技術産業）が68.6%となっている。都道府県立図書館の平均的な蔵書構成が、人文系39.9%、科学技術産業17.8%*であることを見れば、川崎図書館がいかに科学技術と産業に力を入れているかがわかるだろう。また、川崎図書館の特徴的な資料群として、社史や特許・規格資料がある。この分野の資料の充実も特筆すべき点である。本書の巻末には、分野ごとの蔵書数の変遷が掲載されており、時系列での推移を見ることもできる。

こうした年史のつくりとして、本書は特に年表が丁寧である。各年を一言で表す見出しをつけ、その年の動きが一目でわかるようになっている。また、川崎図書館の活動以外に、社会の動きや雑誌記事が掲載されている。最近10年分には予算や統計が記載され、図書館の活動をまとめて知ることができる。

年表の各所に掲載されたコラムが面白い。コラムでは、川崎図書館のトピックスを紹介している。ここでは、サイエンスカフェというユニークな取組みが眼を引いた。館内配置図の変遷が載っているのも年史として異色であろう。昔を知る人は、川崎図書館の懐かしい姿を思い出すのではないだろうか。

川崎図書館の科学技術に力を入れるという姿勢は、開館当初は明確なものではなかったようだ。年表を見ると昭和62（1987）年度までは、公共図書館と工業図書館という「二足の草鞋」の時代が続く。昭和63年度に「科学技術図書館」という姿勢を打ち出し、現在では科学・産業図書館として生まれ変わった。

科学・産業図書館としての転身は、ジェネラルな性格が求められる県立図書館の中にあって、かなり思い切ったものだったろう。しかし、専門性を強く打ち出すことで、図書館の存在意義は飛躍的に高まった。川崎図書館について取り上げた新聞記事は、リニューアル後に倍増している。それだけこの図書館が注目されていることの現れといえる。

川崎図書館は「これからもチャレンジする」をモットーに掲げているという。今後も独自の取組みとユニークな試みで発展していくことだろう。

（収集書誌部逐次刊行物･特別資料課　嶋田（しまだ）　真智恵（まちえ））

＊『図書館に関する基礎資料　平成20年度』　文部科学省国立教育政策研究所社会教育実践研究センター刊　2009年

ワールドデジタルライブラリー憲章

世界各国の図書館等が各国の文化の特色を示すコンテンツを提供するウェブサイト「ワールドデジタルライブラリー」の憲章が、4月に発効に至った。

憲章は、ワールドデジタルライブラリーの目的、対象、コンテンツの仕様、参加機関の範囲や権利等を定めたものである。これまで「ワールドデジタルライブラリー」は、米国議会図書館と参加機関との二者間合意により維持されてきたが、今後はすべての参加機関共通の憲章に従って、執行評議会、常設委員会等を設けて運営される。

国立国会図書館は現在、ワールドデジタルライブラリーに15のコンテンツを提供している。今後、コンテンツの追加等について検討していく予定である。

※ワールドデジタルライブラリー（World Digital Library）

URL　http://www.wdl.org/

※ワールドデジタルライブラリーの沿革、内容、国立国会図書館が提供しているコンテンツについて、本誌580（2009年7月）号　pp.4-9で紹介しています。

感謝状の贈呈

永年にわたり購入図書評価員として国立国会図書館の資料収集業務に多大な貢献のあった福田忠氏に対し、平成22年5月27日付けで感謝状を贈呈した。

大正時代等の本の著作権者を探しています

「近代デジタルライブラリー」では、国立国会図書館が所蔵する明治期および大正期に刊行された図書を、著作権処理を行いインターネット上で提供しています。著作権処理に際しては、著作者の没年、著作権者の連絡先を調査し、これらが不明の著作物について、著作権法第67条に基づく文化庁長官の裁定を受けています。

このたび、連絡先がわからない著作権者約4万5千名について、8月23日（月）までホームページ上で「著作者情報公開調査」を実施しています。皆様のご協力をお願いいたします。情報提供の方法などについては、以下をご覧ください。

○URL　https://kokaityosa.da.ndl.go.jp/

国立国会図書館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞電子図書館＞近代デジタルライブラリー＞著作者情報公開調査

利用者アンケートご協力のお願い

国立国会図書館が提供する各種のサービスを改善するために、次のとおりアンケートを実施します。

■国立国会図書館ホームページアンケート

国立国会図書館ホームページを利用されている方々を対象としたアンケートです。皆様のご意見をお聞かせください。

○アンケートページ　URL　http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete.html

国立国会図書館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞国立国会図書館について＞利用者アンケート

○実施期間　6月21日（月）～ 9月17日（金）

■図書館アンケート

国内の図書館を対象としたアンケートです。登録利用者制度の登録機関となっている図書館から無作為抽出した約1,300館に対して、7月に調査票をお送りする予定です。ご協力をお願いいたします。

○お問い合わせ先

国立国会図書館　総務部企画課評価係

電子メール　hyoka@ndl.go.jp

講演会「電子図書館の可能性」

電子情報が氾濫し、電子書籍が台頭する中で、図書館が果たす役割とは？
電子図書館は、今、何ができ、これから何を目指すのか？

これらの問いについて公開の場で論じ、電子図書館の将来と可能性を考えるため、電子図書館事業の実践の場である国立国会図書館関西館において、長尾真国立国会図書館長の講演とパネルディスカッションを開催します。入場は無料です。なお、当日はインターネット中継を予定しています。

○日　　時：7月16日（金）　13:00～16:00
○会　　場：関西館　大会議室（定員約300名）
○プログラム
①講演「理想とする電子図書館」
長尾真（国立国会図書館館長）
②報告「国立国会図書館の電子図書館の現在」
大場利康（国立国会図書館関西館電子図書館課長）
③パネルディスカッション「電子図書館の可能性」
パネリスト　長尾真（国立国会図書館長）
仲俣暁生氏（マガジン航編集人）
藤川和利氏（奈良先端科学技術大学院大学電子図書館研究開発室長）
大場利康（国立国会図書館関西館電子図書館課長）
司　　会　中井万知子（国立国会図書館関西館長）
○お申込方法
ホームページの「参加申込みフォーム」からお申し込みください。定員に達した時点で受付を終了します。
URL　http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/dl_future.html
国立国会図書館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞イベント・展示会情報
○お問い合わせ先
国立国会図書館関西館　総務課
〒619-0287　京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話　0774（98）1225

講演会
「セマンティック・ウェブと図書館：機械が情報を読む時代へ」

近年、図書館をはじめとする情報流通の世界では「セマンティック・ウェブ」が注目を集めています。セマンティック・ウェブとは、ウェブサイトなどの情報資源に、コンピュータが自動処理を行える形のメタデータ（タイトル、作成者、データ形式など、その情報資源に関するデータ）を付与することでより高度な情報探索を行う、次世代ウェブの考え方です。

このような時流に対応し、国立国会図書館では、「国立国会図書館件名標目表」（NDLSH）の流通性、相互運用性を高めるよう、ウェブ上に新たな提供形式を構築するなどの取組みを行っています（本誌pp.10-14参照）。

この講演会では、セマンティック・ウェブの概念について、国立情報学研究所と国立国会図書館の事例をふまえながら、わかりやすくご紹介します。ぜひお気軽にお越しください。入場は無料です。

○日　　時　　7月27日（火）14:00～16:30

○会　　場　　東京本館　新館講堂（定員約300名）

関西館　第一研修室（定員約70名　東京会場からのテレビ中継）

○内容・講師（演題はいずれも仮題）

・セマンティック・ウェブ概説

永森光晴氏（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科講師）

・国立情報学研究所の事例紹介

大向一輝氏（国立情報学研究所准教授）

・国立国会図書館の事例紹介

大柴忠彦（国立国会図書館収集書誌部収集・書誌調整課）

○お申込方法

ホームページの「参加申込みフォーム」からお申し込みください。定員に達した時点で受付を終了します。

http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/bib_lecture_h22.html

国立国会図書館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞イベント・展示会情報

○お問い合わせ先

国立国会図書館　収集書誌部収集・書誌調整課書誌調整係

電話　03（3506）3362（直通）

お知らせ

NDL-OPACで検索できる資料が増えました

この5月までに、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）で、以前に受け入れた国内のアナログレコード（SP、LPなど）、国際機関の刊行物（パブリケーション）、科学技術関係資料（テクニカルリポート[1]、海外の学位論文、海外の加除式規格）などが検索できるようになりました[2]。

詳しい検索方法については「利用の手引き」をご覧ください。

1 科学技術分野の研究成果報告書などのうち、主に米国で刊行される、簡易な形態のもの。
2 科学技術関係資料は、「規格・リポート類の検索／申込み」で検索してください。

図書館を経由したレファレンス・サービスのFAX・郵送での申込み、遠隔複写・図書館間貸出しのFAXでの申込みを終了します

6月30日をもって、図書館を経由して受け付ける、レファレンス・サービスのFAXおよび郵送による申込み、遠隔複写・図書館間貸出しサービスのFAXによる申込みを終了します。

■レファレンス・サービス

今後は、インターネットを通じてお申し込みください。

○国立国会図書館レファレンス・サービス

国立国会図書館ホームページ（http://www.ndl.go.jp）＞図書館員の方へ＞レファレンス・サービス（http://rnavi.ndl.go.jp/reference_login/）

＊事前に登録が必要です。登録手順等はサービスのページでご確認ください。

なお、インターネットをお使いになれない場合、入力が困難な添付資料などがある場合は、事前にご相談ください。

○お問い合わせ先

国立国会図書館　主題情報部参考企画課レファレンス係

電話　03（3581）2331　内線27124

■遠隔複写・図書館間貸出しサービス

今後は、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）経由でお申し込みください。申込書の原本を郵便などで送っていただくことも可能です。

なお、NDL-OPACで検索や申込みができない資料群（憲政資料、占領期資料、アジア言語資料など）に限り、従来どおりFAXによる申込みが可能です。

○お問い合わせ先

国立国会図書館関西館　文献提供課複写貸出係

電話　0774（98）1313（直通）

■ 国際子ども図書館 夏休み催物「科学あそび」

昨年の様子（「じしゃくのふしぎ」をテーマにスライムをつくる）

国際子ども図書館では、科学読物研究会の坂口美佳子さんを講師にお招きして、科学と科学の本に対する子どもたちの興味を引き出す「科学あそび」を開催します。

○日　　時　7月31日（土）①13:30～、②15:00～
　　8月　1日（日）①13:30～、②15:00～

＊①は電気の実験、②はドライアイスの実験を行います。
＊所要時間はいずれも1時間程度です。

○会　　場　国際子ども図書館　3階ホール

○講　　師　坂口美佳子氏（科学読物研究会）

○対　　象　小学1年生以上

＊大人は入れません。

○人　　数　各回とも　40名程度

○参 加 費　無　料

○お申込方法

事前申込制です。直接来館、電子メール、往復はがきでお申し込みください。先着順で、定員に達した時点で受付を終了します。

申込み受付は7月1日（木）からです。詳細は国際子ども図書館ホームページ（http://www.kodomo.go.jp/）をご覧ください。

＊①、②は両方お申し込みいただけます。

○お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館　児童サービス課
〒110-0007　東京都台東区上野公園12-49
電話　03（3827）2053（代表）

※「科学あそび」開催日に、14:00から「子どものためのおはなし会～科学の本を楽しもう」を行います（申込不要。対象は4歳以上で、大人は入れません）。通常の「子どものためのおはなし会」はお休みします。

第17回東京国際ブックフェアに参加します

国立国会図書館は、日本最大の本の展示会である東京国際ブックフェアに出展します。ブースでは、納本制度、蔵書の大規模デジタル化、国際子ども図書館のサービスを中心に当館の活動を紹介します。みなさまのご来場をお待ちしております。

第16回出展の様子

第17回東京国際ブックフェア
期間　7月8日（木）～11日（日）　10:00～18:00
会場　東京ビッグサイト（東京都江東区有明3-11-1）
主催　東京国際ブックフェア実行委員会、リードエグジビジョンジャパン株式会社

新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

レファレンス　712号　A4　81頁　月刊　1,050円　発売　日本図書館協会

・世界遺産の普及啓発と教育
・就学義務制度の課題
・北欧の子ども手当
・地域における若者自立支援ネットワーク（現地調査報告）

NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録　2010年1号
（1980年以前～2010年3月収録）　年2回更新
年間契約価格42,000円、初年度のみ63,000円（検索ソフト込み）
発売　日本図書館協会
参加館は243館（国立国会図書館、86点字図書館、156公共図書館等）。
収録レコード444,717件。

入手のお問い合わせ
日本図書館協会
〒104-0033　東京都中央区新川1-11-14　電話　03（3523）0812

想いも、
歴史も、
積み重なる。

2010年は、国民読書年。

国立国会図書館は、日本中から集められた本を、守りつづけています。

2010 国民読書年

国立国会図書館
National Diet Library

● **東京本館**　〒100-8924　東京都千代田区永田町1-10-1　TEL. 03-3581-2331　www.ndl.go.jp
● **関西館**　〒619-0287　京都府相楽郡精華町精華台8-1-3　TEL. 0774-98-1200　www.ndl.go.jp
● **国際子ども図書館**　〒110-0007　東京都台東区上野公園12-49　TEL. 03-3827-2053　www.kodomo.go.jp

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No.591 6 June 2010

CONTENTS

02 Book of the month - from NDL collections
Naval funeral of Admiral Kabayama Sukenori

04 Subject search
How to search for a book by subject

10 To expand library knowledge into the web world
Developments of the NDLSH

16 Strolling in the forest of books (3)
Utopia, the "nowhere" country

19 Various media
Materials available in the Audio-Visual Materials Room and Electronic Resources Room in the Tokyo Main Library

24 Networks of federal libraries in the U.S.

15 <Tidbits of information on NDL>
Useful information is here!

26 <Books not commercially available>
○*Kitakata no some katagami : Kitakata no some katagami o seikatsu to asobi no naka ni : Aizugata o riyoshita monozukuri*
○*Hakubutsukan wa chi no wandarando : hatachi o mukaeta Chuohaku to Tomo no Kai no katsudo*
○*Kanagawa Kenritsu Kawasaki Toshokan 50-nenshi : kagaku to sangyo no joho raiburari*

29 <NDL NEWS>
○World Digital Library Charter
○Presentation of commendations

30 <Announcements>
○Searching for copyright holders of books published in the Taisho era and others
○Call for participation in the user questionnaire survey
○Lecture "Future of the Digital Library"
○Lecture "Semantic Web and libraries: toward an era when machines read information"
○New bibliographic data added to the NDL-OPAC by retrospective cataloging
○Discontinuance of acceptance of applications via libraries for reference services by fax and mail, and for remote copy service and interlibrary loan by fax
○Summer event of the International Library of Children's Literature: Fun with science
○NDL to take part in the 17th Tokyo International Book Fair
○Book notice - publications from NDL

国立国会図書館月報

発行所 国立国会図書館
編集責任者 山田敏之
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03（3581）2331（代表）
FAX 03（3597）5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

平成22年6月号（No.591）
平成22年6月20日発行 定価525円
（本体500円）

発売 社団法人日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03（3523）0812（販売）
FAX 03（3523）0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社 正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜すいして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞「刊行物」＞「国立国会図書館月報」）でご覧いただけます。

表紙・本文 中性再生紙使用

シマフクロウ
服部雪斎画　明治５　自筆　１枚　66.0×51.8cm
（『錦窠禽譜』（伊藤圭介編）冊続11
＜請求記号　寄別11-10＞所収）

国立国会図書館月報

平成22年6月20日発行（毎月1回20日発行 6月号 通巻591号）

発売：社団法人 日本図書館協会　定価525円（本体500円）